

金融サービスのサードパーティによるアウトソーシング

知っておくべき重要なポイント

金融サービス機関では急速かつ大規模にクラウド化が進んでいます。その一方で、運用レジリエンスでは、サードパーティリスクとその管理方法に焦点を当てる必要があります。なぜなら、企業がクラウドベースのソリューションに移行してビジネスを変革するにつれて、顧客に重要なサービスを提供するためにサードパーティの製品やサービスを利用することが増えているためです。

サードパーティのリスク管理 (TPRM) と主要な業界および規制ガイドラインは、現在主要な懸念事項であり、EU域外でビジネスを行う金融機関にも影響を与えます。これらには、イングランド銀行のポリシースタートメントや2021年3月に発表されたPS7/21 アウトソーシングおよびサードパーティのリスク管理に主に基づいた、アウトソーシングの契約に関する欧州クラウドユーザー連合 (ECUC) ポジションペーパーおよび欧州銀行監督局 (EBA) ガイドラインが含まれます。

サードパーティのリスク管理 (TPRM)

TPRMは、重要なサービスでサードパーティの製品やサービスを利用する際のリスクを特定し、低減することに焦点を当てたリスク管理の一つの方式です。規制当局は、企業がこのリスクを管理すべき基準について、大幅に引き上げる新しいガイドラインを発表したため、TPRMは現在、経営陣や取締役のリスク管理の重要課題となっています。

課題は次のとおりです。

- すべてのサードパーティのリスクを管理するためのリソースと能力が不足
- 関連性またはサービスのライフサイクルを通じたリスク管理に対する一貫性のない非効率的なアプローチ
- 意思決定、監視、ワークフローにテクノロジーとデータ対応の自動化を活用できない
- 複数の事業領域にまたがる複雑な運用モデルの維持

TPRMフレームワークは、あらゆる形式のクラウド配置をカバーする必要があります。これには、各配置の重要性和リスク、クラウドでホストされるサービスとデータのレジリエンスの要件、および詳細なレジリエンスのオプションを含める必要があります。

また、事業継続計画 (BCP)、ストレスのない出口計画、ストレスのある出口計画も含める必要があります。

欧州クラウドユーザー連合 (ECUC)

ECUCの目的は、欧州全体の金融業界におけるパブリッククラウドのエコシステムを強化することです。規制の内容に応えるために、課題とソリューションについてクラウドサービスプロバイダーと共同の立場を確立することを目指しています。

ECUCによって特定された課題：

- クラウドコンピューティングがアウトソーシングとみなされる仕様のため、パブリッククラウドの導入は困難です。
- Digital Operation Resilience Act (DORA) などの法律やSchrems IIなどの判決により、現在、パブリッククラウドサービスの導入が困難になっています。
- CSPを個別に取り込むと、事務的な手間と時間がかかり、優先順位がずれてしまいます。

ECUCのポジションペーパーには、プライバシー、セキュリティ、ガバナンス、規制、および標準の契約条項に関する要件が記載されています。また、クラウドの導入によって生じる課題の一部に対するソリューションが提供されています。クラウドテクノロジーをコンプライアンスに沿った形で長期的に利用するためのガイダンスを提供することも目指しています。

アウトソーシングの契約に関する欧州と英国のガイドライン

欧州銀行監督局 (EBA) やイングランド銀行 (BoE) などの規制当局は、金融サービス機関にクラウドの柔軟性を向上させるよう求めています。これらのガイドラインでは、優れたガバナンス、リスク評価、アクセシビリティ、および監査能力も推奨されています。

BOEのガイドラインはEBAのガイドラインとほぼ同じですが、より新しいものです。どちらのガイドラインにも次の要件が含まれます。

- ガバナンスと記録管理
- アウトソーシング契約の締結前の検討事項
- アウトソーシング契約の締結中にとるべき措置
- アクセス、監査および情報に関する権利

詳細については、**BoEガイドライン**と**EBAガイドライン**を参照してください。

規制当局が同一のアクセス権および監査権を行使するためには、アウトソーシング契約において規定を設ける必要があります。違いは、規制当局にとって、これらの権利はクリティカルなアウトソーシングや重要なアウトソーシングだけでなく、すべてのアウトソーシングに対して行使できなければならないということです。

必要なアクションとは？

データクラウドのアウトソーシング契約では、クラウドのレジリエンスのオプションとして、異なる場所にある複数のデータセンター、複数のベンダーまたはバックアップベンダー、オンプレミスとパブリッククラウドデータセンターの組み合わせ、またはシステムをオンプレミスに戻す機能の維持が含まれる場合があります。

新しいハイブリッドおよびマルチクラウドインフラストラクチャは、究極の柔軟性をもたらします。これにより、データを移動して、複数のクラウドプロバイダー間でワークロードを移動し、必要に応じてオンプレミスに戻す能力が得られます。また、中断を最小限に抑えながら、データの移動は迅速に行われます。

そのため、データに関する法規制の懸念がある場合でも、常に準備を整え、コンプライアンスを維持することができます。

テラデータは、規制監督を新しいビジネスチャンスに変えるハイブリッドおよびマルチクラウドソリューションを提供しており、あらゆるシナリオにおいて優れている唯一のプロバイダーです。

テラデータについて

テラデータは、コネクテッド・マルチクラウド・データプラットフォームを提供する企業です。テラデータのエンタープライズアナリティクスは、ビジネスのあらゆる課題を解決します。大規模な混合データワークロードを今、そして将来も処理できる柔軟性を実現するのは、テラデータだけです。Teradata Vantageアーキテクチャは、クラウドネイティブで、as-a-serviceで提供され、オープンなエコシステム上に構築されています。こうした設計上の特徴により、Vantageはマルチクラウド環境でコストパフォーマンスを最適化するための理想的なプラットフォームとなっています。詳しくは、[Teradata.jp](https://www.teradata.jp)をご覧ください。